



AIR断震 倶楽部通信 40

世界初！空気ので家を浮かす！
揺れない家が家族を守る



「究極の地震対策住宅」の株式会社三誠AIR断震システムです。
株式会社三誠AIR断震システムは、株式会社三誠のグループ会社です。
両社の担当者と名刺交換させていただいた方々に配信しております。
※このメールはテキストメールでもご覧になれますが、HTML形式で配信しております。

台湾、豊後水道で連続地震 南海トラフ地震の心配はないのか？



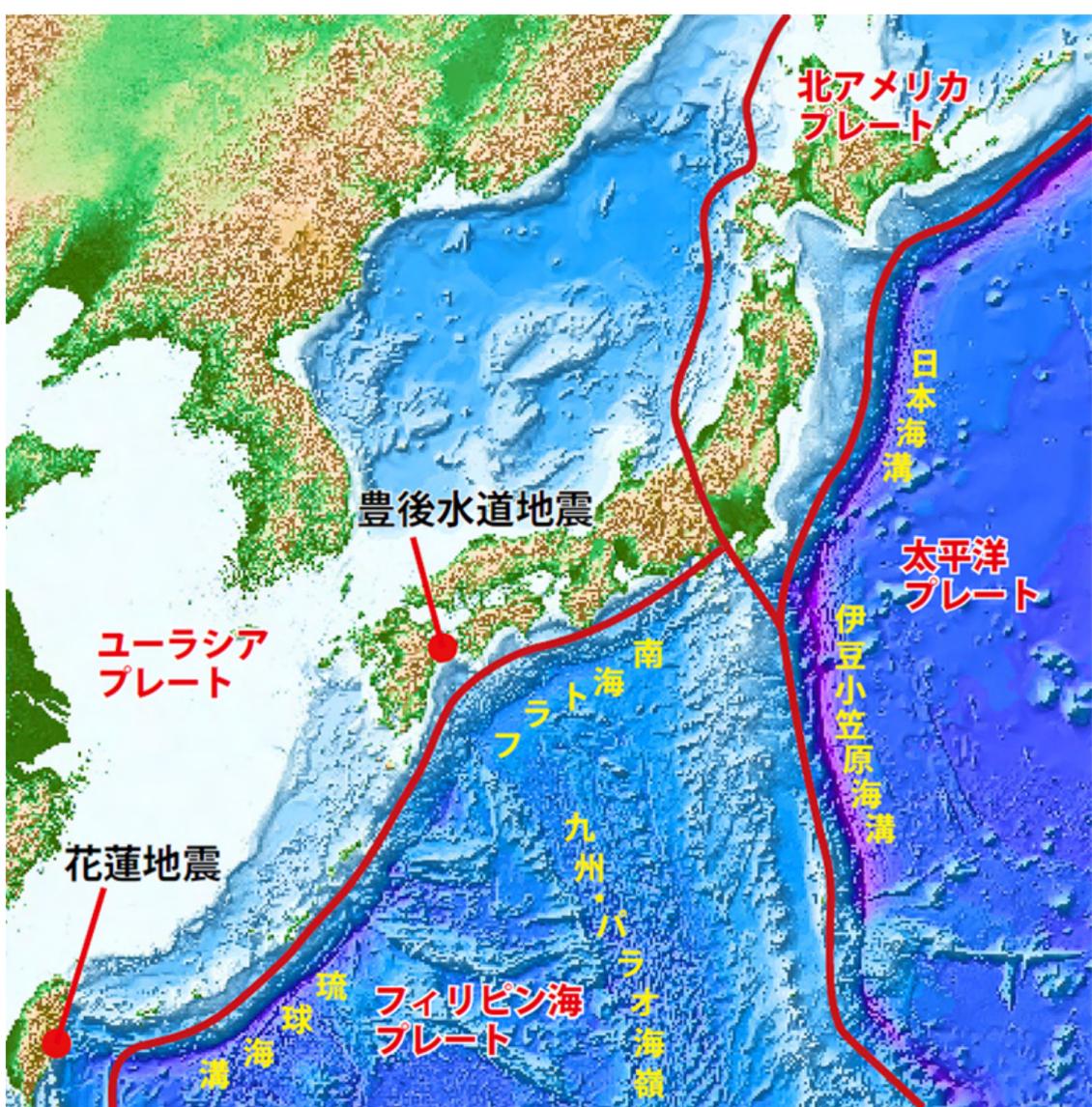
* 気象庁地震情報データベースを元に加筆

2024年の地震（震度1以上）は、元日の「令和6年能登半島地震」（マグニチュード7.6、最大震度7）の本震、余震を含め、昨年比で3.4倍も発生しています。2024年1月1日～5月20日では2498回、昨年の同期間では743回です。

この地震発生回数の増加も心配ですが、4月4日に台湾近海を震源とするマグニチュード7.7の花蓮地震、2週間後の4月17日に四国と九州の間の豊後水道で発生したマグニチュード6.6の豊後水道地震は、どちらも「南海トラフ地震の前触れではないか？」との懸念が検討されるものでした。

幸いにして、どちらの地震も「南海トラフ地震の前兆とは言えない」という気象庁の見解でしたが、1400 km近く離れた2つの地震が、どうして「南海トラフ地震」と関連づけられるのでしょうか。

豊後水道は南海トラフ地震の想定域の西端 花蓮地震の震源は琉球海溝の西端……



* 一般財団法人日本水路協会のマップに加筆

日本列島の上の海底地図で2つの地震の震源を確認すると、共通項が見えてきます。南海トラフと琉球海溝は九州東南沖から始まる「九州・パラオ海嶺」を挟んでつながっています。両方ともフィリピン海プレートが、ユーラシアプレートに沈み込む場所になっています。

この南海トラフ沿いのプレート境界では、海側のフィリピン海プレートが、陸側のユーラシアプレートの下に1年あたり数cmの速度で沈み込んでいます。その際、プレートの境界が強く固着して、陸側のプレートが地下に引きずり込まれ、ひずみが蓄積されます。そして、陸側のプレートが引きずり込みに耐えられなくなり、限界に達して跳ね上がり「南海トラフ地震」が発生するのです。だから、専門家は台湾の花蓮地震でも、南海トラフ地震との関連性を検討しているわけです。弊社ホームページでは、改めて南海トラフ地震に関する情報をまとめました。

[詳しくはHPへ▶](#)

地震が起きたその時、家を浮上させいのちと家財を守る！

「エアー断震システム」

地震の揺れを感知すると瞬時にセンサーが作動。エアータンクから空気を送り込んで家を浮かせ、揺れを建物に伝えづらくします。

震度7の揺れを約1/30に軽減



▲国立研究開発法人 防災科学研究所での実証実験の様子
震度7を想定した住宅の浮上実験をご覧ください。

[詳しくはHPへ▶](#)

「AIR断震倶楽部通信」
バックナンバーはこちらから▶

「エアー断震システム」
詳しい資料請求はこちらまで▶

「エアー断震システム」
の効果を体感してみませんか。
関東に4カ所体験できる展示場があります。

[バックナンバー▶](#)

[資料請求▶](#)

[展示会場▶](#)

☆☆私たちは、地震災害から一人でも多くの命を守るのに本気です!!
この思いにご賛同いただける方がいらっしゃいましたら、是非ご紹介ください。
最後までお読みいただき、ありがとうございました。

《送信者》
株式会社 三誠AIR断震システム
〒104-0033 東京都中央区新川1-6-1 2 M&Sビル3階
TEL: 03-3551-0272 FAX: 03-3551-0273
info@airdanshin.co.jp https://airdanshin.co.jp

※このメールの内容に関するご意見・ご質問はこちら